第54回全日本スカッシュ選手権大会 結果報告

コーチ総評(選手権女子)

まず選手権女子ですが、西尾舞洋選手が**３年連続のベスト８から、今年は初の全日本３位入賞を飾りました**。準決勝では2023年の日本王者である緑川あかり選手(Greetings)との試合で敗れたものの、終始落ち着いてプレーしていて、特に最初の一ゲーム目が取れていればと思わせる内容でした。ショットセレクトのイメージもよく、ただそのイメージにショットクオリティが届いてないのでここからフィジカル面、スキルが上がっていけばと思います。

中島晶選手も予選から勝ち上がり、**本戦シードの坂田日葵選手をストレートで下し、初の全日本ベスト8。**一昨年予選敗退、昨年ベスト16と着実に成績を上げています。ジュニア最終年となるこの1年も海外遠征に積極的にチャレンジしている成果でもあると思います。

準々決勝でも大学選手権王者の高橋くるみ選手(慶應義塾大学)との試合でもドライブはよく、ウィニングショットの精度やチョイスが良くなると勝つ可能性も高まるかと思います。。

鈴木音色選手は予選決勝で元全日本3位の前川美和選手(Greetings)に敗れます。少し気持ちが空回りした部分もあり、改めてスカッシュの難しさも感じる試合になったかと思います。スカッシュの難しいところで、メンタル面に動揺があると相手に何が効いているか考える余裕がなくなるので、目線を落とさずにプレーすることも重要と感じました。すぐ12月にはインカレも控えているので、切り替えて頑張っていきます。

桑原杏奈選手は予選決勝で中島晶選手との対戦。このタイミングで同じチーム同士当たってしまったのは残念ですが、今大会はすごくいいパフォーマンスを出せていたと思います。

特に予選2回戦では現在日本ジュニア代表の緑川ひまり選手(Greetings)との対戦となり、**この試合をファイナルタイブレークの大接戦で下して勝利。**会場のボルテージも高く、**大会初日のベストバウトだった**かと思います。また最近のトレーニングの成果も見えて、ファイナルに入っても動きもよく、相手のショットにリアクションを取り続けらえたｋとは大きいかと思います。この勝利を自信にして飛躍していきたいと思います。

コーチ総評(選手権男子)

第4シードに位置した安成翔太選手が準々決勝でMakino Ren選手(Greetings)0－3で敗退。2人の試合は、3ゲームで1時間以上を超える試合となり、どちらが勝ってもおかしくない紙一重の試合でした。惜しくも敗退となったものの、この秋から取り組んでいる試合展開の作り方など収穫も多いと率直に思います。秋に足首を怪我した中でしたが、やれることはやった結果ですので、この経験は必要なことと捉えて、またリスタートしていきます。

今回5-8シードに入った曽根直樹選手は、関東大学選手権チャンピオンの伊藤幹太選手(東洋大学)にストレート勝ち。伸びてきている若手選手の壁となり、ベスト８に返り咲きました。準々決勝でも高橋秀脩選手(Greetings)から1ゲームを取りましたが、スタミナが持たず、1-3で敗退。とはいえ、元全日本ベスト4の実力を見せた大会だったかと思います。

同じく本戦シードに入った横田夢月選手はベスト16となりました。今大会直前に臀部の肉離れもあり、本戦2回戦では土岐幸誠選手(東洋大学)に敗戦。インカレも近いので無理をしない戦い方を選択せざるを得なくなったので、消化不良だったかと思います。
12月のインカレでもまた土岐選手との再戦となるので、まずは怪我を直してリベンジしてもらいたいと思います。

初の出場となった伊藤亘汰朗選手はジュニア日本代表の池田到真選手(Greetings)に敗戦。前回敗戦した時に比べるとラリーの展開も考えてプレーできるようになっています。スピードも武器ですが、そこだけでは通用しない相手になった時にフィジカルだけに頼らないスカッシュができるようになると十分勝てる可能性があります。

同じく初出場となった中村成希選手は関西大学選手権チャンピオンを倒し、全日本初勝利。勢いそのままに予選決勝も1ゲーム目をしっかり取りましたが、2ゲーム目から勝ちを意識してしまい、組み立てが単調になってしまいました。勝てるチャンスがあっただけに、流れの中で耐え時と攻め時の流れが分かるようにしていきたいと思います。

RENt Gcube Starting new values TIPNESS Be-Win